

資料108-4

科学技術・学術審議会

研究計画・評価分科会

宇宙開発利用部会

(第108回) 2026.8.26

直近のトピックスについて

令和8年8月26日

研究開発局 宇宙開発利用課



文部科学省

H3ロケット9号機の打上げ結果について

H3ロケット9号機の打上げについて

打上げ概要・結果

- ◆ 打上げ日時：令和8年8月11日(火)4時23分31秒
- ◆ 場所：種子島宇宙センター 大型ロケット発射場
- ◆ 結果：成功 (ロケットは計画どおり飛行し、「みちびき7号機」を正常に分離し、所定の軌道に投入したことを確認)

H3ロケット9号機の特徴

- ◆ 令和7年12月の打上げ失敗以降初となる主衛星を搭載した打上げ
- ◆ 失敗の原因究明を踏まえ、高温による内部の剥離リスクを排除したファスナ結合方式PSSを適用 (H3ロケットでは初適用)
 - ✓ なお、6月に打上げ成功したH3ロケット6号機(30形態試験機)では、補修方式PSSを適用
 - ✓ 6号機に続き、原因究明評価の裏付けや技術力向上につなげるための追加のフライトデータを取得 (現在詳細分析中)

搭載ペイロード

- ◆ 準天頂衛星システム「みちびき7号機」
 - ✓ 政府(内閣府)が管理・運用する衛星測位システム(日本版GPS)
 - ✓ 現在、5機(1~4、6号機)を運用中
 - ✓ GPS等と互換性を有し安定的な位置・時刻情報を提供する衛星測位サービス、高精度な測位等を可能とする測位補強サービス、災害情報等を配信するメッセージサービスを提供
 - 現在、高度約36,000kmに到達し、目標とする準静止軌道への調整を実施中。姿勢・通信は確立済み。今後所要の機能確認を経て、2027年3月頃にサービス提供開始予定



H3ロケット22形態



H3ロケット9号機打上げポスター



準天頂衛星システム「みちびき」



みちびき7号機のロゴマーク

H3ロケット10号機による 火星衛星探査機(MMX)の打上げについて

H3ロケット10号機による火星衛星探査機(MMX)の打上げについて

打上げスケジュール・場所

- ◆ 打上げ予定日時: 令和8年10月20日(火)4時41分03秒
(予備期間: 令和8年10月21日～令和8年11月7日)
- ◆ 場所: 種子島宇宙センター 大型ロケット発射場

火星衛星探査機(MMX)の概要

MMX = Martian Moons exploration

- ◆ 世界初の火星圏からのサンプルリターンを目指す、日本が主導する米国・欧州との協力による国際宇宙探査ミッション
- ◆ 火星の衛星フォボスの物質を持ち帰ることで、火星の月(衛星)の起源や太陽系の進化過程の解明とともに、将来の有人火星探査を見据えた、世界初の火星圏往還技術の獲得を目指す

ミッションのスケジュール(予定)

- ◆ 地球・火星間の片道飛行期間1年弱、火星到着後の観測・運用期間3年間を含む、全体のミッション期間は5年間

打上げ	: 2026年(R8) 10月20日
火星圏到着	: 2027年(R9) 8月
火星圏出発	: 2030年(R12) 11月
地球帰還	: 2031年(R13) 7月

